Ⅱ　研究の概要

１　研修主題

研修主題　　「意欲的に学び続ける生徒の育成」

副主題　　～アクティブラーニング型の授業実践を通して～

２　研修主題設定の理由

昨年度は、研修主題「学ぶ意欲をもち続ける生徒の育成」副主題「めあての提示と振り返り活動の工夫を通して」であった。学習意欲を持ち続けさせるために、生徒が興味関心をもつような学習課題の提示を工夫したり、学習を終えた後の学びを実感させるための活動を工夫したりしてめあての提示から振り返りまで生徒が見通しをもって学べる単元構成を工夫した授業実践を積み重ねてきた。この実践によって、本校の生徒の学ぶ意欲が向上したことが成果としてあげられる。本年度は、昨年度の学習意欲に視点をおいた研修を継続することとし、研修主題を「意欲的に学び続ける生徒の育成」とした。また、昨年度の研修を土台として学習指導要領改訂の視点にも取り上げられている「アクティブラーニング型の授業実践」を通して、さらに生徒の学習意欲の向上を図る研修を行っていきたいと考えている。本校の学校教育目標の一つは「生きた学力を磨く生徒」であり、目指す生徒像は「昨日の自分を超えようとする生徒」「主体的に気づき、考え、行動する生徒」を掲げている。「生きた学力」の捉えを「協働・共生社会において知識を習得し活用・探究する力、学び合える力、学び続ける意欲」として進めていきたい。本校では、アクティブラーニング型の授業を「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」として捉えており、この指導法と研修を深めていくことは、本校の目指す生徒像に直接つながるものであると考える。

昨年度の研修を通しての本校生徒の実態を踏まえた課題は、以下のとおりである。①ＣＲＴの結果における各教科の学習意欲に関する観点別得点率は、１年では全教科で全国平均を上回り、２・３年では国語以外全教科で全国平均を下回る結果となった。その中でも特に２年の数値が全体的に低く、中だるみの傾向がみられる。②課題の提示の工夫により、意欲的に学習する姿勢が見られるようになってきたが、学習意欲が行動として現れていない面がある。③振り返り活動の工夫により、学習理解を実感できる生徒が増えてきたが、次なる課題や新たな課題を見出すまでに至っていない。④補充学習や家庭学習の習慣化により少しずつ学習習慣が身に付きつつあるが主体的に学ぶ生徒は少ない。

このような本校の課題を改善するためには、生徒に「わかった、おもしろかった」という達成感・成就感を実感させる魅力ある授業を展開し、生徒の学習意欲を高めることが必要である。それは、学び合いを通して学び続ける意欲を育むことであり、本校学校教育目標の「生きた学力」の育成につながるものである。また、次回の新学習指導要領改訂に向けて、中教審の論点整理の中で学び続ける生徒の育成を目指す指導法として「アクティブラーニング」があげられている。これからの時代を担う生徒の育成において、様々な課題に自ら進んで積極的に対応できる力が求められている。本校でも日々の学習において意図的・計画的にカリキュラムマネジメントをする必要があり、本校の目指す生徒像の育成の

ためにも、意欲的に学び続ける生徒を育成していかなければならないと考える。全国学力学習状況調査の結果からも、めあての提示と振り返り活動の学習過程の確立を土台とした課題解決型の学習の必要性は指摘されているところでもある。課題提示から振り返りの学習過程の中に協働性を意識した課題解決的な学習活動を取り入れて、さらに生徒の学習意欲を高めていけるよう努めていく。

これらのことから、本年度より生徒の実態に合わせ、昨年度の「めあての提示と振り返り活動」を踏まえた「アクティブラーニング型の授業実践」を研修の副主題とし、知識を習得し活用・探究する力、生徒の学び合える力、学び続ける意欲を高めていきたいと考える。また、一人１授業を継続しながら、全職員でよりよい指導のあり方について研修を重ね指導力の向上を目指していきたい。

３　研修のねらい

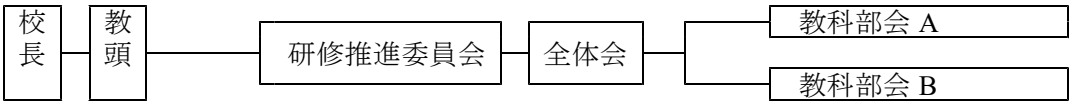
各教科の特性に応じて、アクティブラーニング型の授業実践を継続して積み重ねることにより、知識を習得・活用・探究し、学ぶ意欲を持ち続ける生徒を育成する。

４　研修の内容

（１）アクティブラーニングについての基礎研修による共通理解
（２）各教科の目指す生徒像（態度・行動目標）
（３）アクティブラーニング型の授業実践による提案授業（一人１授業）

５　研修組織　◎は主担当

	組　織	構　成　員	研修推進上の役割や主な研修内容
研修組織図	研修推進委員会	校長　教頭　教務 ◎研修主任 教科部会代表A・B	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化 ○授業実施詳細計画の作成 ○研修成果と課題のまとめ
	全体会	全職員	○研修内容の確認
	教科部会A 6名	◎倉澤 岡田　岡野　原　遠藤 笹口	○研修のねらいにそった指導案検討会の実施 ○授業の視点にそった授業参観の実施 ○授業検討会での良い点・改善点の意見交換 ○授業検討会での次回授業に向けての見通し
	教科部会B 6名	◎塚越 下山　篠澤　阿部 中島　井田（加藤）	○研修のねらいにそった指導案検討会の実施 ○授業の視点にそった授業参観の実施 ○授業検討会での良い点・改善点の意見交換 ○授業検討会での次回授業に向けての見通し



６　研修の経過

指は指導案検討　授は研究授業・授業検討会　□は校内研修，○は部会研修

月日	内　　容	○研修（授業）の視点　・明らかになったこと
4/5	1 本年度の研修について	○今年度の研修主題・内容・方向性の確認 ・主題、副主題、一人１授業、アクティブラーニング型の授業の研修の方向性の確認
4/11	2 研修主題、副主題の共通理解	○研修主題、副主題の共通理解 ・一人１授業の確認とアクティブラーニングの基本的な考え方 ・Ｂ訪問授業者の決定
5/9	3 本年度研修計画の確認	○本年度研修計画の確認 ・本年度の校内研修計画書読み合わせによる内容確認。 ・Ａ訪問に向けての指導案について ・アクティブラーニング型の授業の共通理解
6/13	4 指導主事問Ａ	○アクティブラーニング型の授業に留意した授業実践 ・検討会 ①学力向上対策②校内研修③生徒指導④健康・体力・安全管理⑤服務規律
6/16	授岡野教諭　国語「短歌を読み味わおう」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
6/20	5 Ａ訪問指助言の確認	○研修の指導助言を踏まえた研修の方向性の再確認と今後の一人一授業の予定確認および部会別研修報告
7/7	授阿部教諭　道徳「仲間」ケツメイシ	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
8/29	6 研修の方向性確認と提案授業確認	○部会別研修報告および今後の方向性の確認 ①今後の授業計画についての確認②アクティブラーニング型の授業チェックリスト③２学期補充学習計画の確認
8/31	授岡田教諭　国語「俳句の世界」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
9/21	授笹口教諭　音楽合唱の喜び　「涙をこえて」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
9/26	授中島教諭　理科「身のまわりの物質」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
10/3	7 Ｂ訪問指導案１次検討会	○本校における学力向上の共通理解 １授業改善の３つの視点 ①プロセス②インタラクション③リフレクション ２補充学習の充実 ３家庭学習の徹底
10/24	授下山教諭　数学関数「変域」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善

		・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
	8 Ｂ訪問指導案２次検討会	・授業のねらいにそった班編成（等質・習熟度） ・個に役割を与えること ・対話的な学びにおいてはルール作りをきちんと決めること
10/25	授塚越教諭　数学 「１次関数」（１次関数の利用）	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
10/26	授遠藤教諭 英語 「A Work Experience」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
11/10	授篠澤教諭 理科 「作用・反作用」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
11/14	指Ｂ訪問指導案最終検討会	○指導案全体に関わること・本時の展開について ・英語科ではＣＡＮ－ＤＯリストに基づく授業作りをしていく。 ・指導計画に、予想される生徒の反応・生徒への支援・評価項目を関連づけて明記することにより本時で身につけさせたい力が明確になる。
11/16	授倉澤教諭 社会 「裁判所」	・校内研修に基づく実践 ・部会ごとの実践の振り返りと改善 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと
11/25	9 指導主事訪問Ｂ 授原教諭　英語「What is the most important thino you」	・校内研修に基づく実践および全体による授業検討会 ・ＫＪ法による参観者の意見交換 ・今日の学びと明日からの指導に生かすこと ・研修についての指導助言
11/28	10 Ｂ訪問指導助言の確認と研修の修正	・授業研究会での指導助言の確認 ・課題①生徒が主体的な学びに向かう課題提示や振り返りの方法 ②ねらい達成のための対話的な学びの方法 ③深く学んでいる生徒の姿についての共通理解
12/19	11 研修のまとめ①	・今年度の研修の振り返り ・自分自身の取り組み
2/6	12 研修のまとめ②	・来年度の研修に向けての話し合い
3/6	13 引き継ぎ事項の確認・紀要の完成	・来年度え向けての引き継ぎ事項の確認 ・本年度のまとめおよび来年度の研修に向けて共通理解

※　その他の研修

月日	区　分	講　師	○内容　・成果
4/20	特別支援教育研修	スクールカウンセラー 青木　美穂子	○特別な支援を要する生徒への対応 ・特別な支援を必要とする生徒の特徴と対応の仕方を理解した。
5/9	食物アレルギー研修	養護教諭 井田　美穂	○アナフィラキシーショックの未然防止と対応 ・資料から食物アレルギーの基礎知識を学び、エピペンの使い方を実際に体験し、発症時の対応を理解した。
5/23	アクティブラーニング型の授業について（総合教育センター出前講座）	総合教育センター町田指導主事	○アクティブラーニング型の授業研修 ・アクティブラーニング型の授業では、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の３つの学びの実現が求められている。 ・アクティブラーニングの充実には、子どもの変容を見取る視点を共有することが大切。

			子どもの変容を支える教師の手立てを分析する。子どもの振り返りの記述に着目することが重要である。
7/4	心肺蘇生法講習会	救急救命士	○心臓マッサージ・人工呼吸法・ＡＥＤの使い方 ・心肺蘇生法について、流れにそって体験することで理解した。
10/24	アクティブラーニング型の授業について（センター出前講座）	総合教育センター 町田指導主事	○本校一人１授業を参観し、授業検討会で指導・助言 ・アクティブラーニング型の授業を効果的に生かす指導について

Ⅲ　実践内容

１　推進委員会

（１）委員会のねらい

校内研修を円滑に進めるために、研修の方向性を示すとともに、提案された授業について検討・修正を加えながら、校内研修の主題を達成できるように努める。

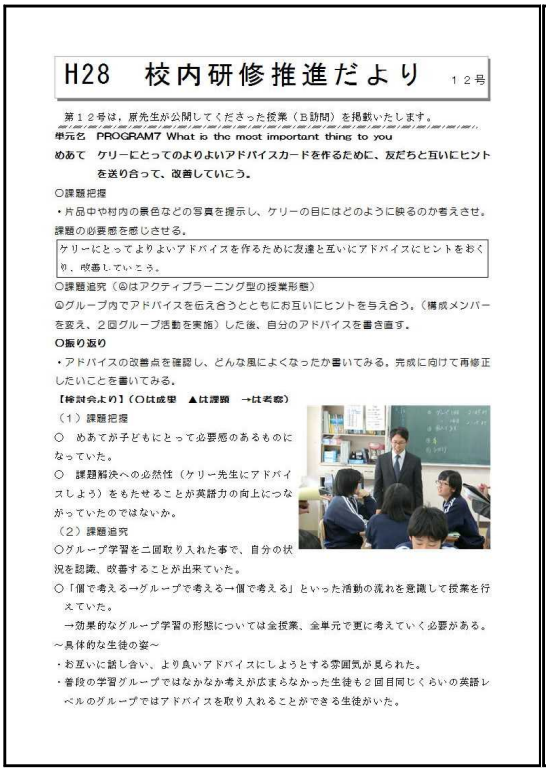
（２）実践内容・方法

①　校内研修の方向性を示し、修正しつつ研修の全体を推進する。

②　校内研修全体会において、司会や記録を分担して行う。

③　部会別研修の中心となって、授業後の部会別研修を行う。

④　部会別研修で検討された課題や修正案等を「校内研修だより」にまとめ発行し、全校職員で共通理解を図る。



H28　校内研修推進だより　１２号

第１２号は，原先生が公開してくださった授業（B訪問）を掲載いたします。

単元名　PROGRAM7 What is the most important thing to you

めあて　ケリーにとってのよりよいアドバイスカードを作るために、友だちと互いにヒントを送り合って、改善していこう。

○課題把握

・片品中や村内の景色などの写真を提示し、ケリーの目にはどのように映るのか考えさせ。課題の必要感を感じさせる。

ケリーにとってよりよいアドバイスを作るために友達と互いにアドバイスにヒントをおくり，改善していこう。

○課題追究（◎はアクティブラーニング型の授業形態）

◎グループ内でアドバイスを伝え合うとともにお互いにヒントを与え合う。（構成メンバーを変え、２回グループ活動を実施）した後、自分のアドバイスを書き直す。

○振り返り

・アドバイスの改善点を確認し、どんな風によくなったか書いてみる。完成に向けて再修正したいことを書いてみる。

【検討会より】（○は成果　▲は課題　→は考察）

（１）課題把握

○　めあてが子どもにとって必要感のあるものになっていた。

○　課題解決への必然性（ケリー先生にアドバイスしよう）をもたせることが英語力の向上につながっていたのではないか。

（２）課題追究

○グループ学習を二回取り入れた事で、自分の状況を認識、改善することが出来ていた。

○「個で考える→グループで考える→個で考える」といった活動の流れを意識して授業を行えていた。

→効果的なグループ学習の形態については全授業、全単元で更に考えていく必要がある。

～具体的な生徒の姿～

・お互いに話し合い、より良いアドバイスにしようとする雰囲気が見られた。

・普段の学習グループではなかなか考えが広まらなかった生徒も２回目同じくらいの英語レベルのグループではアドバイスを取り入れることができる生徒がいた。

▲　付箋の内容について量でなく質の向上が図れるとさらによい。何をどこまで書かせるかを考えていく必要がある。（特にアドバイスである赤の付箋紙）

→本時の評価項目に付箋の内容のアドバイスなどを盛り込んでみては。

（３）振り返り

＜振り返り・評価について＞

○　何を学んだのか明確な振り返りがされていた。

→次時の課題が生まれるきっかけになっていた。

▲　本単元の目標を達成した生徒の状態を表したのが評価基準であり本時の目標を達成した生徒の状態を表したものが評価項目であること。さらには指導計画における各自の評価項目を積み上げたものが評価基準であることを意識して指導案を作りたい。

【日常の授業へ生かす、来年度への課題】

○どのようにしたら主体的、対話的であり、より深い学びになるようになるのかを考えていく必要がある。

→そのためにもグループ学習の形態や、ねらいの明確化、課題提示の工夫などを継続して実践していく必要がある。

【授業研究会のまとめ、各教師の「今後の授業に取り入れて行くこと」】

○ケリー先生にアドバイスをもたせるという必要感がある授業であった。指導案も随分変化し、原先生の授業準備が素晴らしかった。

○生徒はやりたいことを意欲的に取り組むので、課題やめあてを工夫していく必要がある。

○グループの中で対話的に授業が進んでいてよかった。

○グループを変えて交流することの有効性を考えて授業に取り入れたい。

○グループ学習同質のグループで意見を活発に言える生徒が現れたのでグループ学習についてもう一度考えたい。

○単元を貫く課題を明確にして授業に臨むことが大切である。

○活動で何を身に付けさせたいかが明確であった。

○生徒一人ひとりのことをよく考えて授業に臨んでいた。

○明るい雰囲気で授業が出来ていた。

原先生のアイデア・授業実践を他教科でも活用していただければと思います。お忙しい中、ありがとうございました。先生方も一人一授業の協力ありがとうございました。研修で学んだ事を日常の授業に生かしていけるようにしましょう。　（文責：倉澤）

２　授業実践

実践例１　（２学年・国語）

授業の視点

叙述の特徴や表現技法に着目させながら、作者を主人公にした短い物語に書き換えさせたことは、短歌の情景や心情を読み取る上で有効であったか。

（１）ねらい　３首の歌を短い物語に書き換える活動を通して、短歌に歌われている情景や短歌に込められた作者の心情を読み取る。

（２）準　備　教師：ワークシート、短歌を拡大したもの、ペン、ヒントカード

（３）展　開

過程	時間	学習活動 予想される児童生徒の反応	指導上の留意点及び支援 (◎努力を要する児童生徒への支援)	評価項目【観点】(方法) 〇おおむね満足 ◎十分満足
課題提示	7分	1　本時の学習課題をつかみ､追究の見通しを持つ。	・前時までの学習を振り返り、作者になりきって物語を書くと、短歌の情景や心情がみえてくることを思い起こさせる。 ・本時の学習課題を確認する。 ・書き換えるためのポイントを確認する。	
課題解決	10分	2　３首に歌を詠み、句切れや表現技法を確認する。	・３首の短歌を読み、切れ目に／を引く。 ・３首の短歌の表現技法を確認する。	
	3分	3　３首の短歌から１首を選んで書き換えをする。	・自分が書き換えてみたいと思う１首を選んで書き換えの活動を行うように伝える。 ・作者になりきって、短歌の読まれた情景や短歌を読んだとき心情が分かるような物語にしようと促す。	
	5分		・早くかけた生徒の物語を数点選んで紹介する。 ・自由に見に行ったり、質問したり相談したりしてよい時間を設け、物語のイメージを膨らませる。	
	20分		・確認した表現技法に目を向けさせ、表現技法の効果が分かるよ	

		▲短歌を文章に書き換えることができない。 ▲短歌の情景や心情を文章に表すことができていない。 ○短歌を文章に書き換えることを通して、短歌の情景や作者の心情を読み取っている。	うな物語にするように伝える。 ◎情景の浮かびやすい短歌を選択させ、「季節はいつ？」「時間はいつ？」などのやりとりを通して分かっていることからイメージを広げるよう助言する。 ◎短歌に書かれている言葉が何を表しているか確認したり、「この比喩は何を何にたとえているか」とか「体言止めにはどのような効果があるか」など具体的に確認したりして、書き換えを行うよう助言する。 ・選んだ歌の文章が完成したら、他の歌も書き換え　てみるよう伝える。 ・３首書き上がった生徒は資料集から好きな短歌を　選んでさらに物語を作ってもよいとする。	○短歌を文章に書き換えることを通して、短歌の情景や作者の心情を読み取っている。 ◎作者の用いた言葉や表現技法の特長を生かして短歌を文章に書き換え、短歌の情景や作者の心情を読み取っている。 【読む能力】 （ワークシート）
振り返り	５分	４　学習のまとめをし、次時の活動の確認をする。	・書き上がった生徒の文章を数名紹介する。 ・本時の取り組みを賞賛し、学習を振り返る。 ・初めて短歌を読んだときと書き換えをしてみた後とで短歌の印象や解釈がどのように変わったか振り返らせる。 ・次時は、今日書いた文章をもとに、同じ歌同士、違う歌同士で交流することを話し、見通しをもたせる。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・出来上がったお互いの作品を、自由に見たり相談したりする場面を設定したことで、生徒が主体的に友達のよい部分を自分の作品に活かそうとしていた。

・交流活動後はイメージをもって意欲的に取り組める生徒の姿が見られた。

②　課題

・思考をとめないような授業展開、支援方法を考えていく必要がある。

・抽出生徒の教師の支援による変容を見取り、適切な支援方法であったか検討していく必要がある。

実践例２　（２学年・道徳）

授業の視点

「ビンゴ」を取り入れ、意見交流させたことは、多くの意見に触れ、集団を高めるには何が一番大切か考えるのに有効であったか。

（１）ねらい
○態度目標　積極的に意見交流することで、多くの友達の意見にふれる。
○内容目標　ケツメイシの「仲間」を通して集団生活を高める仲間のあり方について考える。

（２）準　備
教師：ワークシート、ケツメイシ「仲間」音源データ
生徒：筆記用具

（３）展　開

過程	時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点
把握	10	○仲間のイメージを思い浮かべる。	・どんな仲間がほしいか、事前アンケート結果をベスト１０形式で発表する。
		どんな仲間がほしいですか。	
		○本時の授業課題を知る。	
		課題　ケツメイシの「仲間」を通して集団を高める仲間のあり方について考えよう。	
展開	10	○ケツメイシの「仲間」を聞いて大事だなと思う部分を９つ選んで歌詞に線を引く。	・歌詞を配付して、最初は鉛筆でいいなと思うところをチェックさせる。そのあと、９つを選び、ラインマーカで線を引かせる。 ・理解できない生徒には個別に説明する。
		集団を高めるのに必要だなと思う番号を９つ選ぼう。	
		○ビンゴ表に９つの番号をランキング順に書く。	
	10	○立ち歩いて、ワークシートを交換し、同じ番号を選んだところにお互いの名前を書き込んでいく。３人以上の名前が書き込まれたところは○を書いて、縦横斜めでビンゴを目指す。	・なかなか動こうとしない生徒がいても強制せず、交換してくれる仲間を何人か紹介する。
		ワークシートをできるだけたくさんの人と交換して意見交換をしよう。	
	7	○時間がきたら着席する。	・ビンゴができたかを聞く。
		ワークシートを交換してどのようなことを感じましたか。	
		・感じるところがけっこう違う。 ・同じだと安心する。	
	8	○１位に選んだものと理由を発表しあ	・ワークシートを交換して、１番大切だ

		う。	と思うものが変わった人いますか。また、どうして変わりましたか。
		集団を高めるには何が一番大切だと感じましたか。	
		・お互いに考えていることを聴きあうこと。	
まとめ	5	○ワークシートで今日の学習を振り返る。	・教師の説話を話した後に感じたことを書かせて、そのままオープンエンドで終わる。
		集団を高めるには何が一番大切だと思いますか。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・楽しいときだけが仲間ではなく、頼れる存在であるという気づきが生まれていた。

・意見を類型的にひろいやすく、深まりやすいワークシートであった。

②　課題

・授業中における生徒指導を重視し、自己有用感を育む教育活動を目指す。

・話し合い活動を活性化させるために、課題を適切な難易度に設定する、指示を明確にするといった工夫が必要である。

・生徒の実態にそった課題提示を目指し、教師がサポートするだけで授業が展開されることを目指す。

実践例３　（３学年・国語）

授業の視点

よりよい俳句づくりのための推敲の場を設定し、グループにおける既習事項を活用した意見交流をしたことは、効果的な言葉の使い方や表現の工夫に注意して読む上で有効であったか。

（１）ねらい

○態度目標…自分の俳句について説明する。適切な言葉を提言する。適切な表現技法を提言する。わからないことを質問する。

○内容目標…友達と意見交流し、適切な考えを自分の作品に活用して、よりよい作品にすることができる。

（２）準　備

推敲プリント、歳時記（資料）、清書用プリント、振り返りシート、パワーポイント

（３）展　開

過程	時間	学習活動 ★努力を要する生徒の反応 ☆おおむね満足できる生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目【観点】（方法） ○おおむね満足 ◎十分満足
課題提	10	１本時のめあてを知る **自分の尾瀬俳句をさらによくしよう** ～学んだことを使って、よりよい言葉や表現にしよう～		

示	分	２既習事項を確認する	・パワーポイントで推敲の要点を整理したものを見せておく。	
課題解決	３５分	３グループで意見交流し、協力して推敲する ★適切な言葉や表現技法の意見交換ができない。 ☆適切な言葉や表現技法を活用して推敲ができる。 ４推敲した俳句を完成させ、清書する	・１人５分ずつ検討。（２５分） ・清書タイム（１０分） ★自分の五感を生かした言葉や既習した表現技法を適切に活用するよう助言する。 ★講師の先生に説明を通して適切な言葉や表現の助言をしてもらう。 ☆よりよい言葉の吟味や季語の選択、また、効果的に表現するための表現技法を講師から助言してもらう。	○言葉に着目して友達と意見交流ができ、自分の俳句を推敲できる。 ◎適切な言葉や効果的な表現技法を意見交流することができ、それを活用して俳句を推敲することができる。 【観点】読む （方法）俳句推敲プリント
振り返り	５分	５本時を振り返る 友達と協力して推敲し、どのような言葉や表現方法を使って、よりよい俳句にすることができたか本時の学びを振り返ろう	・振り返りシートで本時の学びをまとめ、評価させる。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・俳句を相互に見せ合い推敲するという意見交流の場面で、生徒が主体的・対話的に学習する姿が見られた。

・外部講師を有効に活用するには、事前打ち合わせがの重要。講師の役割を明確にしたので、教師の意を汲んだ指導であった。

・俳句の表現技法の適切な提案ができていた。講師や友達のアドバイスを取り入れて、新しく練り直した俳句がつくれていた。講師の先生に積極的に質問する姿が見られた。

②　課題

・グループ活動でより主体的・対話的に学ぶには、どのような支援が有効か再考する必要がある。

・抽出生徒の教師の支援の様子をよりしっかり見取り、生徒がどのように変容したか詳しく検討する。

実践例４　（２学年・音楽）

授業の視点

キーワードとなる部分の表現の工夫を考えさせたり、パートごとに話し合わせたりしたことは、より良い合唱を作り上げていく手立てとして有効であったか。

（１）ねらい

○態度目標：キーワードだと思う歌詞を考え、発表できる。パート練習を通して、気付いたことを意見交流することで、多くの友達の意見にふれる。

○内容目標：各自で考えたことをパートで話し合いながら、曲の特徴をいかした表現の工夫をまとめ、合唱を作り上げていくができる。

（２）準　備

教師：楽譜　パート別 CD　合唱練習振り返りカード

生徒：楽譜　筆記用具

（３）展　開

過程	時間	学習活動 ★努力を要する生徒の反応　☆おおむね満足できる生徒の反応	学習活動への支援と評価　【観点】（方法） ○おおむね満足　◎十分満足
課題把握	10分	○発声練習を兼ねて「かたしな」１番を歌う。 ○前時の既習事項の確認も含めて「涙をこえて」を歌う。 ○本時の目標を知る 課題：「涙をこえて」のキーワードとなる部分の表現の工夫を考えよう。	・前時までの学習を想起させ、確認しながら歌うよう声かけをする。
課題解決	30分	○パートに分かれて音取りを行う。 ○キーワードとなる部分の表現の工夫について考える。 ・各自、自分のパートのキーワードとなる言葉（歌詞）やその部分の表現の工夫を考え、ワークシートに記入させる。 ★キーワードは考えられたが、どういう風に歌ったら良いか、わからない。 ☆キーワードとなる歌詞が考えられ、音楽の要素と関わらせて、表現の工夫が考えられる。 ・各パートでキーワードとなる部分の表現の工夫についてみんなの考えをまとめる。 ○各パートからキーワードの表現の工夫を発表する。 ○キーワードの部分の表現の工夫をいかして、歌うことができるように全体で部分合唱をする。	・パートリーダーを中心に、音がとれていない場所を指摘しあい、確認させる。 ・各自が考えた表現の工夫を１つにまとめながらパートとしての歌い方を１つにする。 ★その部分の強弱記号や音の重なり方などをヒントに考えよう助言する。 ☆その歌詞に込められた作詞者の思いも考えて、表現の工夫をもう一度考えてみよう。 ・各パートへアドバイスし、より良い表現の工夫ができるようにする。 【表現の工夫・技能】（ワークシート） ○歌詞の内容を自分なりに理解して、表現を工夫しようとしている。 ◎歌詞の内容を理解し、歌詞が訴えているメッセージを自分なりに理解して、どのように歌うかについて思いや意図をもって表現を工夫している。
振		○「涙をこえて」を合唱する。	・振り返りシートに本時の学習の達成

り返り	10分	○本時を振り返る。	度・気付いてことなどをまとめさせる。

（４）本時の成果と課題

① 成果

・各パートでキーワードとなる部分の表現の工夫について、みんなの考えをまとめる活動では、生徒の気づきが多く生まれていた。

・対話的な学びによって深い学びへと繋がっていた。

② 課題

・学習プロセスを生徒に可視化し、安心して迷いなく活動できるような工夫が必要である。

・他教科との横断的な指導を積極的に取り入れていく。

実践例５　（１学年・理科）

授業の視点

生徒自らのアイデアで実験計画を考案・実施させたことは、生徒に自己有用感をもたせて学びの主体性を高めるのに有効であったか。

（１）ねらい

未知の気体Ｘ（窒素）をつくり，それが何であるかを推定する実験計画を実施して，気体Ｘの根拠を説明することができる。

（２）準　備

教師：塩化アンモニウム，亜硝酸ナトリウム，試験管，水槽，試験管立て，ガラス管，ピンセット，ゴム栓，ゴム管，線香，石灰水，リトマス紙，ＢＴＢ溶液，マッチ，ホワイトボード，ワークシート

生徒：教科書，ノート

３　展　開

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目 【観点】（方法） ○おおむね満足 ◎十分満足
課題提示	5	○生徒が前時に考案した実験計画を再度確認する。 **課題：気体Ｘが何であるか推定して説明しよう。**		
課題解決	20	○前時での計画に沿って気体を調べる実験を行う。 ○実験結果をもとに，気体が何であるかを生徒一人一人が考察し，鑑定書に記入する。	・保護眼鏡を着用させる。 ・少なくとも一人一実験は担当させる。	【思考・表現】 ○気体の種類が何であるかを，実験の結果をもとに適切に

		＜予想される生徒の様子＞ ★考察を書くことができない。 ★気体の種類を適切に判断することができない。 ☆実験結果をもとに気体の種類を適切に判断している。		判断している。 ◎気体の種類が何であるかを適切に判断し，そのように判断した理由を実験の結果をもとにわかりやすく示している。 （ワークシート・発表）
	15	○生徒一人一人の考察をもとに班で話し合い，班での意見をホワイトボードにまとめる。 ○ホワイトボードを各班で感想を述べ合いながら見て回る。	★それぞれの実験がどの気体を判別するための実験だったか確認させる。 ★実験計画やこれまで学んだ気体の性質を振り返らせる。 ☆図解など，よりわかりやすい鑑定書になるようにアドバイスする。 ☆次の活動で班の中心となるよう声かけする。 ・班を横断した相談もできる。 ・ホワイトボードを班に配布し，話し合いの結果をまとめさせる。 ・お互いの成果を共有化させる。	
振り返り	10	**振り返り：気体Ｘの鑑定書を完成させよう。** ○話し合い，共有した意見をもとに，気体Xの鑑定書を完成させる。 ○自己評価をワークシートへ記入する。	・課題を再度確認し，班ではなく個人個人の意見を記入させる。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・鑑定の実験の際に、実験方法をどうすればうまくいくか生徒が協力して実験に取り組んでいた。

・子どもの興味・関心を高められるようなめあて・課題を設定した。

②　課題

・アクティブラーニング的活動を入れる際は「何のために活動を取り入れるのか」ということを明確にしていく。

・１時間の授業内で行いたいことを明確にし、活動を絞っていく必要がある。

実践例６　（３学年・数学）

授業の視点

質問や発言に対して開かれた雰囲気を作ることは、主体的に学ぶ意欲を高める上で有効であったか。

（１）ねらい

○態度目標　発言、質問、相談をしながら課題に取り組むことができる。

○内容目標　関数yx　ax^2のグラフを用いて、変域の対応を調べることができる

（２）準　備

教師：教科書・方眼黒板・学習プリント　　生徒：教科書・ノート・筆記用具

（３）展　開

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	観点評価項目 ○おおむね満足 ◎十分満足
課題把握	10分	1　前時の復習 $y=\frac{1}{4}x^2$ のグラフを描く。 ★描けない。 2　本時の学習課題をつかむ	★正確に座標をとることを意識しながら、丁寧にグラフを書くように指導する。 課題　変域を調べよう	
課題解決	35分	3　変域の意味を確認する。 ★覚えていない ☆なにかの範囲 4　グラフを使って、変域を調べる。 ★y の変域をx の変域の両端の対応だと勘違いしている	☆変域の意味について、きちんとした説明でなくともいくつか生徒に発表させたい。 変域⇒変数のとりうる値の範囲 ★具体的な例を挙げ、値の範囲を聞く 中学生の年齢、出席番号、おやつの値段 ★ジェットコースターのレールをグラフに見立てて変域の求め方の説明をする。 横の範囲を決めると縦の範囲はどうなるか。 ↓ 一番高いところから一番低いところまで ★横の範囲をx の範囲、縦の範囲をy の範囲と考えると、x の変域に対応してy の変域が決まることを確認する。 ○不等号の使い方に十分注意するように指導する。 ・t　とT　の違い ・グラフ上での表し方（t　は○、T　は●） ★y の変域は「一番高いところから一番低いところまで」を強調し指導する。	○グラフを用いて、変域の対応を調べることができる。 ◎グラフの性質や計算を用いて、変域を求めることができる。
		5　グラフを使わ		

		ずに、変域を調べる ★何をしていいか分からない	★方眼紙がなくてもグラフイメージを書いて考えの補助とするように指導する。 ☆x の変域が０を含む場合はy の最大値・最小値が０になることや、x の変域の絶対値の大きい端がy の最大値･最小値になることに気づかせたい。	
振り返り	5分	6　本時の学習を振り返る。 振り返り　学習プリントにわかったこと、驚いたこと、学んだことをかく		

（４）本時の成果と課題

①　成果

・ジェットコースター図で変域を説明したのはイメージしやすい。

・ペア学習の学び合いのスタイルが身についている。

②　課題

・めあての提示や身につけさせたい内容を明確にし、アクティブラーニング型の授業を効果的に組み入れていく必要がある。

・学習形態を工夫し、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実現できるようにしていく。

実践例７　（２年・数学）

授業の視点

活用型の授業において説明活動を取り入れることは、主体的に学ぶ姿勢を高め、数学の有用感を実感させるために有効であったか。

（１）ねらい

○態度目標・・・共通の課題に対して互いに協力し、よりよい説明活動を目指す。

○内容目標・・・1 次関数を利用して、携帯電話の料金について様々な要望をもつお客さんに分かりやすく説明する。

（２）準　備

授業プリント、設定用紙、説明用資料、ふり返りシート

（３）展　開

過程	時間	学習活動と予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目【観点】（方法） ○おおむね満足 ◎十分満足
復習	1分	・前時の復習を行う。	・3 つの料金プランを確認する。	
課題	4分	・生徒との対話から、説明を理解してもらうため	★グラフ・表・式を用いて数学的に説明することを理解させる。	

把握		にはグラフ、表、式を用いると良いことを確認し、めあてに繋げる。		
課題解決	38分	・本時の学習の流れを知る。 ・ロールプレイの具体的な流れを示し、説明するべきポイントをおさえる。 ・学習の流れに沿ってロールプレイングを行う。 ・3人1組の班を作り、店員役の班とお客さん役の班に分け、5 分間ロールプレイを行い、1 分間反省と改善の時間とする。	★学習の流れを示し、活動がスムーズに行えるよう配慮する。 ★グラフ・表・式を利用して説明ができるよう、説明のポイントを絞る。 ・ある程度台本を用意しポイントを絞ることで、本時のねらいから逸れないよう配慮する。 ★机間指導を行い、グラフ・表・式のどれかを使って説明できるよう支援する。 ☆すべてのプランを比較する、グラフ・表・式を関連づけて説明するなど、より隙のない説明活動へと改善できるよう支援する。 ・班の全員が活動できるように窓口を2つ以上作らせる。(窓口2つの場合残った 1 人は記録。窓口 3 つであれば全員が説明することになる。)	【見方・考え方】 ○グラフ・表・式を使って、要望にあったプランを説明することができる。 ◎グラフ・表・式から読みとれることを用いて、他のプランとの比較も交えながら、より的確に説明することができる。 (ふり返りシート・発表の様子)
振り返り	7分	・ふり返りシートを書き、本時の学習をふり返る。	・ふり返りの時間を十分に確保する。	

（4）本時の成果と課題

① 成果

・携帯電話の料金プランについて、1次関数で表されたグラフや表を使って店員役としてお客さん役に説明する場面を設定し、ロールプレイを行うことで、「アクティブラーニングの手法の1つとして使える。」「一人一人に役割を与えたことで自己有用感を高めることができた。」「グラフや表を使って説明するよさに気づけた生徒がいた。」という効果が見られた。

② 課題

・めあてと評価の整合性、評価方法について考えていく必要がある。

・思考を深められる場をしっかりと確保し、生徒の思考を深められる支援方法を考える必要がある。

実践例８　（２年・英語）

授業の視点

将来の自分の夢や目標についてのスピーチの内容について、グループで英語を使っ

てその内容について質問をしあったことは、より詳しく深い内容のスピーチを作成するためのきっかけを作成するためのきっかけ作りに有効であったか。

（1）ねらい

Let’s interview about friend’s speech.（友達のスピーチについてインタビューをしよう）グループのメンバーの書いたスピーチの草案を読み、その内容について質問をすることが出来る。

（2）準　備

生徒：教科書、ノート、ファイル、ワークシート（補助教材）

教師：教科書、タイマー、ワークシート（補助教材）

（3）展　開

過程	○学習活動 ・予想される生徒の反応	時間(分) 5	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目【観点】（方法） ○おおむね満足 ◎十分満足
課題把握	1 ○ Greeting ○ Rapid reading	5	ALT、JTE ともに生徒との英会話の時間を持ち、 英語学習の雰囲気作りを行う。 活動で使うと予想される質問などをリストにし て、ウォームアップの活動とすることで自然と 質問文が口になじむよう工夫する。 ・英文を読むのが苦手な生徒はお互いに読み方 等をフォローし合うように指示する。	
課題提示	2 ○ Today’s Target：Let’s interview about friend’s speech.	5	本時の目標と授業の流れを提示し、見通しをもって授業に取り組めるように配慮する。	
課題解決	3 Asking question ○グループになりお互いのスピーチを読み合い、その内容を踏まえて質問をし合う。 ・疑問詞などを用いて、積極的に質問作成が出来る ・聞きたい内容はあ	25	グループは活動しやすいよう、３～４人のグループ構成とする。 友人のスピーチを読んだ後に、書いてある内容やそのスピーチから興味をひかれた内容についての質問をし合う。 ・スピーチを読みながら、自分が思いついた質問を付箋に書く。 ・自分の質問を相手に手渡しながら質問を行う。質問された側はワークシートに付箋を貼っておく。 ・各班にはお助けカードを配付し、自由	【表現】(W.S/観察) ○グループのメンバーのスピーチを読んで質問をすることが出来る。 ◎グループのメンバーのスピーチを読んで、質問に英語で答えることが出来る。

	るが、英文に出来ない ・聞きたい内容がなく、手持ちぶさたになってしまう ・スピーチの草案を読んでも理解できない ○質問が終わったグループは、その質問から自分のスピーチにさらに必要な情報を書き入れ、次時につなげる。		な表現で質問作成が活発に行われるよう配慮する。 ★ Rapid　Reading の W.S の中から選択して質問させる。 ☆質問したい内容を英語でどう表現すればいいのか、アドバイスを与える。 ・英語が得意な生徒には student teacher として、支援が必要な生徒の手助けを行わせる。 ・班に１冊和英辞書を配布して、既習の表現を用いながら自由な質問文を作成させる。 ＊教師と ALT は机間巡視を行う。より幅の広い高度な表現をしたい高位の生徒の手助けと、自分で文を表現できない生徒の手助けを分担して行う。	
振り返り	4 Summary 振り返りシートに本時の振り返りを行う。	5	・それぞれの生徒の頑張りを評価し、次回では今回質問された内容を自分のスピーチに盛り込み、より深い内容のスピーチ作りを行うことを提示する。 ・生徒の振り返りを参考にし、次の授業づくりに活かす。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・グループ活動が主体的な活動につながっていた。

・支援が必要な生徒もグループ学習によって助けてもらうことで活動できていた。

②　課題

・理解が十分でない生徒への支援の工夫が必要である。質問できる力を身につけさせることも重要である。

・単元を貫いためあてが意欲につながる。単元構想を指導案に明記する。

実践例９　（３年・理科）

授業の視点

課題追究の場面で、お互いの意見を交換し、同じ意見同士でグループを作っていったことは、自分の考えをまとめ「作用・反作用の力」により、人は回した方向とは逆に回転することを考えさせる上で効果的であったか。

（1）ねらい

○態度目標…「作用・反作用の力」について、自分から体験をしたり、友達と意見交換をしたりしていくことができる。

○内容目標…「作用・反作用の力の法則」が理解でき、「宇宙空間でドアノブを回す（作用）と、ドアノブから反対の力（反作用）が生じるため、人は回した方向とは逆に回転する」ことが、「力の矢印」を使って説明できる。

（2）準　備

教師：台車（2台)、パソコン、テレビ、プリント　　生徒：教科書、ノート

（3）展　開

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
復習	5	・前時までの復習をする。	・力の矢印 ・２力のつり合い ・慣性の法則 について振りかえる	
課題提示	10	課題　「作用・反作用の力の法則」を理解しよう。 ①「作用・反作用」に関わるいろいろな現象について知り、「作用・反作用」についての説明を聞く。 ②「作用・反作用の力」の現象を予想し、確かめる。	・「作用・反作用」に関わるいろいろな現象をなるべく多く紹介する。 （ロケットの発射・２台のボート・陸上のスターティングブロック・ローラースケート・無重力空間　等) ・「作用・反作用の法則」について、「1つの物体が他の物体に力を加えた場合、必ず同時に、同じ大きさの逆向きの力をうける」ことを説明をする。 ・２台の台車にそれぞれ乗り、一方が押すと，どのように動くのかを考えさせる。その際に、力の矢印を用いて考えさせる。 ・実際に台車に乗って、「作用・反作用の力」を体験させる。 ・体験から、力の向きや大きさを確認ができたら、追加課題を提示する。	
		課題　「作用・反作用の力の法則」を理解しよう。 ～宇宙船内で、ドアを開けようとドアノブを回すとどうなるのか？～		
課題解決	28	③「作用・反作用の力」についての現象を予想し、意見交換を行い、学級内の意見をまとめていく。 ・プリントに自分の考えをまとめ、それをもとに同じ意見のグループを作っていく。 ★プリントに自分の考えを書くことができず、意見交換に参加できない。 ☆図や結果の予想が書かれているが、その力の矢印が作用・反作用なのかが明確に説明できない。	・プリントに、自分の予想する結果と何故そうなるのか「力の矢印」を使って理由を示すようにさせる。 ・意見交換をする際は必ず、「○○だから××になる」のように、理由を述べてから結果を伝えるようにさせる。また、自分と違う理由や結果の場合はお互いにその理由について質問し合うようにさせる。 ★結果をどう思うか尋ね、結果が生じるには必ず「力」が働いていることから、どのような「力」が働いていたのか矢印で示すよう支援する。 ☆「力の矢印」が示す力は「作用・反作用」のどれに当たるのかや何故そのような動きになるのか質問したり、また、別の動作の場合にはどうなるか考えさせたりして、「作用・反作用」の力のはたらき方が明確に答えられるように支援する。 ・自分の考えがまとまらない場合には、	○宇宙空間でドアノブを回すと、ドアは開かずに回した方向とは逆の方向に回転することが説明ができる。 ◎宇宙空間でドアノブを回す（作用）と，ドアノブから反対の力(反作用)が生じるため、人は回した方向とは逆に回転することが、「力の矢印」を使って説明できる。

			友達に質問することもできることや、そのことから自分の考えを記入しても良いことを伝える。 ・学級の意見がまとまってきたら、お互いの発表を聞き合いながら考えをまとめさせ、発表する生徒を決めさせる。	【思考】（プリント・テスト）
振り返り	7	④グループごとに意見を発表しあい、それぞれの考えを聞き合う。	・できたグループ全部から考えを発表させる。発表された考えはすべて認め、正答ではなくても賞賛する。	
		振り返り　～宇宙船内で、ドアを開けようとして、 ドアノブを回そうとする力（作用）がはたらき、 ドアノブから反対の力（反作用）がはたらき、人は逆方向に回転する!!!～		
		⑤映像資料から、結果を確認する。	・映像資料を見せ、「作用・反作用の力」がはたらくことを確認する。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・台車を使って反対方向の力を視覚化したことはわかりやすい。

・宇宙船内の現象について考えるという課題は魅力的であった。

・実験や映像は生徒の興味をひく有効な手立てである。

②　課題

・魅力的な課題を設定することで生徒の主体的な学びが生まれることを心がける。

・本時のねらいを身につけた具体的な生徒の姿が評価項目である。それを達成するための課題であり、アクティブラーニングである。生徒に十分考える時間を確保するために資料や支援を精選したり、焦点化する必要がある。

実践例10　（３年・社会）

授業の視点

「被告人Ｘは有罪か無罪かグループで判断しよう」という課題を設定し、グループごとに付箋紙を用いて考えたことは、めあてを達成するために有効であったか。

（１）ねらい

○態度目標　容疑者Ｘは有罪か無罪かグループで積極的に意見交流できる。

○内容目標　事件の概要や検察官、弁護人の主張、物証などを多面的、多角的に見取り、有罪か無罪かを判断し的確に表現することができる。

（２）準　備

教師　教科書・資料集　　生徒　教科書・資料集・ノート

（3）展　開

過程	時間	・学習活動 ★努力を要する生徒の反応 ☆おおむね満足できる生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目【観点】（方法） ○おおむね満足 ◎十分満足
課		・模擬裁判の進め方について説	・今回は評議の部分を行うことを指	

題提示	10	明し裁判員裁判の流れを確認し、「コンビニ強盗致傷事件」の内容を読む。 被告人Xは有罪か無罪かグループで判断しよう。	示し、取り組ませる。	
課題解決	30	・「検察官」「弁護人」の主張を読み、評議の視点を明確にし、グループで被告人Xが有罪か無罪かを話し合う。 ★悩んでしまって全く考えられない。 ☆もみ合い肩を打ち付けているのに、はっきり見えたのだろうか。 ☆追いかけていくほどの勇気がある人なのだから、信用できるのでは。 ☆月明かりだけでバイクの種類が判別できるのか。 ☆バイクが戻ってくる音が聞けるほどスピードは速かったのか。 ☆１０万７０００円を盗んでいるのに出ているのは９万７０００円のため証拠にはならない。 ・グループごとの意見を発表させるさせる。	・ワークシートで証拠が有罪である証拠なのか、有罪とは言い切れない証拠なのかワークシートの表に付箋紙で貼り付けていくように指示を出す。 ・推定無罪の原則とともに証拠を複合し、疑問に思う点を残さない程度に有罪であることが証明されれば有罪であることを補足する。 ・論点について議論が白熱すると考えられるため、呼び鈴を使い時間を切りながら議論させる。（１争点５分程度） ★裁判員、検察官のどちらの意見を採用するのか考えさせる。 ★事件の概要と裁判官、検察官の主張を比較して取り組むように指示を出す。 ☆賞賛し、その中でも最も重視する証拠を考えさせる。また、その他気になることが事件の中に書かれていないか探らせる。 ・様々な見方や考え方があることに気づかせる。	○検察官と弁護人の主張や物証により、被告人が有罪であるのか、無罪であるのかグループで公正に判断させる。 ◎検察官と弁護人の主張や物証により、被告人が有罪であるのかグループで公正に判断し、有罪であれば弁護人に対抗する意見で、無罪であれば検察官に対抗する意見で表現できる。 （思考・判断・表現　ワークシート・発言内容）
振り返り	10	・裁判員制度の意義や課題について感想を書く。 ★記述出来ない。 ☆評議の意味や裁判員の判決の内容について記述出来る。	・国民の感覚を取り入れるのが裁判員裁判であることに気づかせる。 ★どんな感じを受けたのか考えさせる。 ☆事実を判断することの難しさや様々な角度から考えることが大切だと感じた。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・本時の課題設定がとても興味深く、単元を貫いた課題設定が生徒の主体的な活動を生んでいた。

・裁判員として判断を下すことの難しさを生徒が実感できていた。

・振り返りの内容が本時のねらいにせまるものであった。

②　課題

・座席表を活用し、生徒の変容を評価につなげるようにする。

・評価の目的（授業ごとの成績付け、次時への支援への活用、従業改善）を意識し、めあてと評価項目を一致させ、適切な見取りができるようにする。
・生徒の変容が見取りやすく、アクティブラーニングの有効性が確認できるような授業構成を目指す。
・主体的な学びを生むような課題提示の工夫を継続する。

実践例11　（３年・英語）

授業の視点

「ケリーにとってよりよいアドバイスを作るために、友達と互いにヒントを交換し合い改善しよう」という課題を設定し、意図的なグループ編成で二度の話し合いをさせたことはめあてを達成するために有効であったか。

（１）ねらい

グループ内で互いのアドバイスを発表し合い、ヒントを与え合うことで、自分が考えたアドバイスを改善する。

（２）準　備　ワークシート、辞書、パソコン、教科

（３）展　開

過程	時間	学習活動 ★努力を要する生徒の反応 ☆おおむね満足できる生徒の反応	・学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目 【観点】(方法) 〇おおむね満足 ◎十分満足
課題提示	10	１．本時の課題を知る。 ケリーにとってよりよいアドバイスを作るために 友だちと互いにアドバイスにヒントをおくり、改善していこう！ ２．本時の活動・流れについて確認をする。	・片中生、片中校舎、村内の景色などの写真を掲示し、ケリーの目にはどう映るのか考えさせ、課題を達成する必要感を感じさせる。 （JTE・ALT） ・黒板に活動の説明、流れを掲示し、確認できるようにする。(JTE) ①課題の確認 ②個人で見直し ③互いに発表、ヒントを与え合う。 （グループ）※グループを変えて２回行う。 ④個人で見直し ⑤直接ケリーに質問タイム ⑥振り返り	
課	35	３．前時に個人で考えたアドバ	・教室に辞書・パソコンを用意し、	

題解決		イスを見直す。<個人活動>	不安な部分を確認、また足りない部分を付け足せるようにする。(JTE) ・アドバイスについて、友だちに確認したいことや教えてもらいたいことがあれば、質問する準備をさせる。(JTE) ・発音が不確かな単語はケリーに確認するによう促す。(JTE・ALT)	
		４．グループ内でアドバイスを伝え合い、お互いに改善のヒントを与え合う。(構成メンバーを変え、２回グループ活動を実施) <グループ活動>	・できるだけ多くの友達にアドバイスを見てもらい、改善のヒントをもらうことで、よりよいアドバイスができ上がることを伝え、積極的に交流ができるようにする。(JTE)	
		<テーマが“友だち作り”の場合> I know a good chance which gives you new friends. You should go to snow resort. When you ski, you meet many people. And you can make friends. スキースクールに通ったほうが仲間もいるし、友だちができるんじゃない？ ケリーってスキーできるのか？ボードの方がいいんじゃない？	<グループ編成> ①普段の学習グループ ②同じくらいの英語レベルの生徒同士のグループ <ヒントのポイント> ①関係代名詞の文が入っているか見てみよう ②他にも役に立ちそうなアイディアをヒントとして与えよう。 ・改善のヒントを付箋に書き込み、ワークシートに貼り付けさせる。 ・活動全体の動きを指示し、円滑に活動できるように促す。(JTE) ・机間指導をし、活動が滞っているグループや生徒の補助をする。(ALT) ・ヒント以外にもよくできているところにはgoodと書いた付箋を貼るよう促す。(JTE)	
		５．友だちからもらった付箋をもとに自分のアドバイスを改善する。<個人活動>	・友だちのアドバイスの中で参考となる表現や良いアイディアがあった場合は自分のワークシートにメモを取らせ、改善する段階で生かすことができるようにする。(JTE)	
		★単語が分からず、書き直したいことがうまく書けない。 ・スキースクールに通うって英語でどう言うんだろう？ ・スノーボードをするってどう言うの？	★必要な単語を辞書で調べさせたり、単語を与えたりことで文を書くこと	○友だちからのヒントをもとに、ア

		・ ★友だちからのヒントがなく、改善することがない。 ☆友だちからのヒントをもとに、アドバイスを改善することができている。 ６．練り直せた生徒からケリーに自分のアドバイスが役に立つのか質問をする。（アドバイスの効果の検証・発展課題） Do you like snowboarding? Can you go to snow resorts?	ができるようにする。(JTE) ★別のグループの友達に見てもらい、ヒントを増やすことでアドバイスを改善させる。(JTE) ☆友だちのアドバイスを聞いて、良いと感じた表現やアイディアを自分のアドバイスに生かすよう促す。(ALT) ・実際にケリーに質問するよう促すことで自分のアドバイスが役に立ちそうかどうか確認させる。(JTE・ALT) ・ケリーへの質問は書かせてから質問するのではなく、即興で質問を作り会話できるよう指示する。(JTE)	ドバイスを改善することができる。 ◎友だちからのヒントを生かすとともに、友だちのアドバイスのよいところを取り入れることができている。 【表現】 （観察・ワークシート）
振り返り	5	７．本時の振り返り アドバイスの改善点を確認し、どんな風によくなったか書いてみよう。そしてアドバイス完成へ向けて、最終修正したいことを書いてみよう。 ・友だちのヒントを参考にしたら、文が増えて良かった。 ・ヒントのおかげで、もっとアイディアが見つかった。本よりもテレビとかのほうが、たくさん日本語に触れられる。 ・友だちが if を使っていたので、自分も使ってみた。よいアドバイスになったと思う。	・JTE、ALT それぞれから、本時の取組に対しての評価を伝え、次回への意欲を高められるようにする。 ・次回の授業の課題を各自で見つけられるように指示する。	

（４）本時の成果と課題

①　成果

・単元を貫くめあてが明確であり、課題解決への必然性があったので生徒が意欲的に学習に取り組んでいた。

・意図的に編成したグループ学習を２回行ったことで、自分の現状を認識・改善することができていた。

②　課題

・効果的なクループ学習の形態については、全授業、全単元で更に考えていく必要がある。

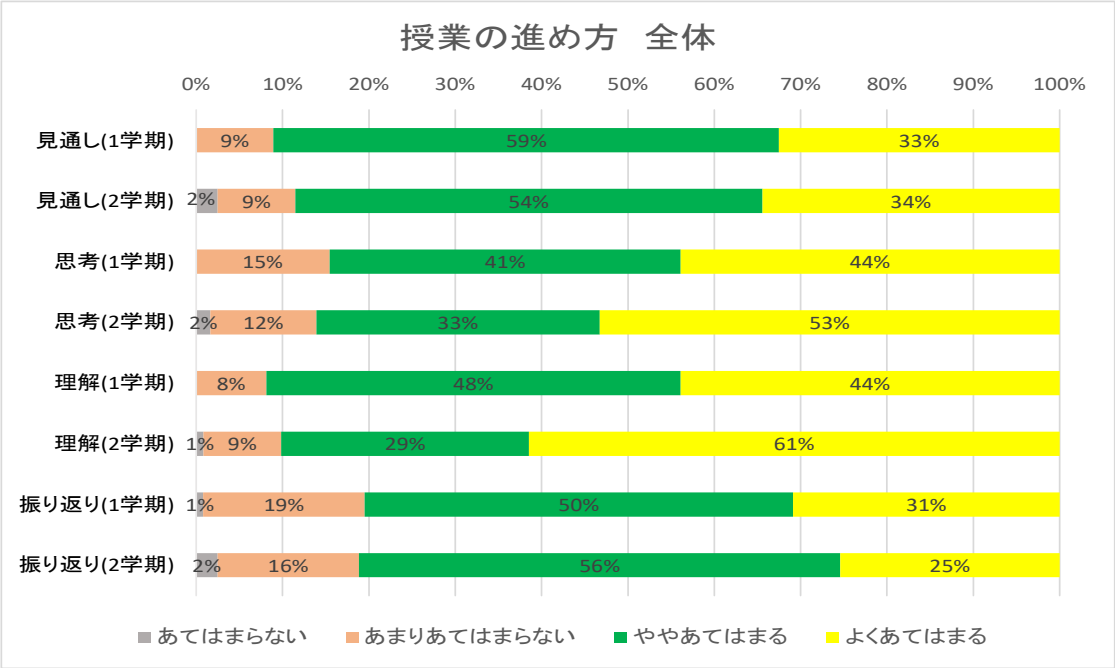
・アドバイスの内容について、何をどのように書くのかを明確にすることが大切である。

３　アンケート結果および分析

「アクティブラーニング型の授業」に関するアンケートを１学期と２学期に実施した。授業に関するアンケート項目は以下の通りである。４段階評価で実施した。

１	「めあて」があると何を学習するか見通しがもてる。	「見通し」
２	「友達と協力して考える」学習活動はやる気がでる。	「思考」
３	「友達と協力して考える」学習活動はわかりやすい。	「理解」
４	「振り返り」は自分の課題がわかり次の学びにつながる。	「振り返り」

以下はアンケート項目の１学期と２学期の結果を比較したグラフである。



アンケート項目１に関する回答結果は、「よくあてはまる」は１％増加したものの、「ややあてはめる」まで含めると４％の減少であった。課題提示の工夫は、生徒の主体的な取組を促す大切なものである。研究授業では、時間をかけて工夫するものの、普段の授業においても意識して取り組む必要があると考える。

アンケート項目２に関する回答結果は、「よくあてはまる」が９％増加し、協働学習が生徒たちにとって思考を促す上で効果的であると感じている生徒が多いことがわかる。一人で考えるより、友だちの考えを取り入れながら、自分の考えを広げたり、深めたりすることが学習意欲を向上させる手立てに有効であると考える。

アンケート項目３に関する回答結果は、「よくあてはまる」が 17％と大幅に増加し、友だちと考えを交流する活動により理解が深まると感じている生徒が多いことがわかる。思考を交流し、理解が深まる学習活動は、まさにアクティブラーニング型の授業の根幹を成す部分であり、生徒たちが意欲的に学び続ける手立てとして有効であったと考える。

アンケート項目４に関する回答結果は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせ、81 ％と変わらなかった。内訳を見ると「よくあてはまる」がやや減少している。振り返りについても、普段の授業から意識して継続的に行う必要があると考える。

これらの結果から、①課題設定の工夫により、生徒たちが主体的に課題に取り組み、②友だちと協力して自分の考えを話し合い、考えを深めていき③振り返りの活動を通して、身についた学びを実感するという本研究の仮説であるアクティブラーニング型の授業は、生徒たちの意欲的な学びに有効な手立てであったと考える。

Ⅳ　研修のまとめと今後の課題

１　研修のまとめ

今年度からアクティブラーニング型の授業実践の研修を始めたわけであるが、まず、新指導要領改訂の主旨の理解や今回の改訂の目玉とも言えるアクティブラーニング型の授業の理解をするために文献研究を中心に行ってきた。とりわけ、全体がアクティブラーニング型の授業についての共通理解を図るために､研修黒板や研修たよりを工夫するなどした。初年度における研修の成果は以下の通りである。

（１）課題設定において、生徒にとって必要感があり、また、魅力のある課題を設定したことにより、生徒が自ら進んで学習に取り組むようになった。また、単元を見通した課題を設定したことで､単元を構成する１時間ごとのめあてが筋の通ったものになり、生徒が何のために本時の学習に取り組むか見通しをもって学ぶことができた。

（２）生徒が自己の考えをもち、様々な考えをもつ他者と対話する機会を設定したことにより、自らの考えを広げたり深めたりする学びにつながった。自己の考えをもって友だちと協力して話し合いながら考えを交流し合う活動は、学習意欲を高め理解の深まりも見られた。様々な考えを聞くことで、自分と共通した考えや違った考えにふれることができたことは、生徒の対話的な学びへの意欲を高めることができた。

（３）自らの学びを振り返る活動を設定したことで、自己の思考の深まりを実感することができ、次なる学びの意欲を生むことができた。授業で身に付けた力を再確認する活動は、自分の新たな気づきや課題を発見する糸口になり、次なる学習意欲につながった。

（４）校内研修全体の成果として、全職員が一人１授業の成果を日常の授業に生かし、次の授業者は課題を踏まえて解決のための授業を構想したので、授業改善に向けた取組が回を重ねるごとに充実していった。さらに、授業検討会も充実しており、「推進だより」で共通理解を図ることができた。

２　今後の課題

（１）「課題設定」においては、単元を通して生徒にとって必要感があり、魅力ある課題を設定する授業構想を年間指導計画にしっかりと位置づける必要がある。また、比較的時間がかかるアクティブラーニング型の授業は計画的に効果的な単元を決めて行わないと時数が足りなくなる懸念があるので注意する必要がある。

（２）対話的な学びにおいて、話し合いを深めるためには意図的な班編成の有効性が確認できた。普段の席順の班編成ではなくねらいに応じた班編成をすることが大切である。

（３）深い学びの生徒像が具体的でないため、生徒の見取りが十分でないところがあった。今後、各教科において深い学びの生徒像を具体的に検討し、全教員が深い学びに達した状態が見取れるようにしていく必要がある。